

# ガリシア語の、-1で終る語の複数形について<sup>1)</sup>

A Forma de Plural das Palabras Rematadas en -1 no Galego

浅 香 武 和

Takekazu ASAKA

## 序

ガリシア語の形態論における特異性の一つに、-1で終る語い(名詞・形容詞・代名詞)の複数形が異なる形態を示す問題がある。例えば、animal(動物)は、animales, animaes, animals, animais, animas, のようにPolimorfismo(形態の多様性)を現している。

本稿では、ガリシアのルネッサンス(Rexurdimento)の創始者ロサリーア・デ・カストロ(Rosalía de Castro, 1837-1885)の作品: Cantares gallegos(1863)と、代表作 Follas novas(1880)、および、現在ガリシアで発行されている新聞 A NOSA TERRA を資料にして、-1で終わる語の複数形がどのような形態をとっているか、分析し、考察してみたい。

### I. 複数形の形態

Rosalía(1863)以前にはガリシア語の文法規則がなく、最初のガリシア語の文法書は、Saco y Arce(1868)である。その後、現在に至るまで10種類ほどの文法書が刊行されているが、その記述には統一的な規定がなく、RAG e ILG(1982)[ガリシア・アカデミーおよびガリシア語研究所編纂] *Normas Ortográficas e Morfolóxicas do Idioma Galego* の規則に従うと、次のようである。2)

- 1) 単音節の語の場合: -1に形態素-esを付加する。例; cales, <cal(関係代名詞・その) <lat. quale, peles <pel(女性名詞・皮) <lat. pelle, soles <sol(男性名詞・太陽) <lat. sole, vales <val(男名・溪) <lat. valleなど。古ガリシア語のテキスト Cantigas de Santa María(354:13)には、taes(<tal)の形態が用いられている。
- 2) 二音節以上の語の場合。
  - 2.1 最後の音節にアクセントのある語: -1を-isに交換する。例; animais <animal(男名・動物) <lat. animale, azuis <azul(形・青い) <prov. azur <ár. lazurd, civís <civil(形・市の) <lat. civile, papeis <papel(男名・紙) <lat. papyru <gr. papyrosなど。
  - 2.2 後ろから二番目の音節にアクセントのある語: -1に形態素-esを付加して複数形を形成する。例; áxiles <axil(形・身軽な) <lat. agile, difíciles <difficil(形・難しい) <lat. difficile, útiles <útil(形・有用な) <lat. utileなど。
- 3) 複合語の場合: 複合語を構成する最後の要素(接尾辞を除く)が単音節であれば、複数形は-1+esとする。例; chuchameles <chuchar+mel(男名・[植]牛の舌草), ollomoles <ollo+mol(男名・[魚]大西洋産の鯛), mirasoles <mirar+sol(男名・[植]ひまわり)など。

現在、このような規則が一応定まっているが、筆者はガリシア語新聞 A NOSA TERRA, N.295 -N.

308 (18 de xuno do 1986-29 de xaneiro do 1987) の記事から-1で終わる語の複数形について調べたところ、516例中-les型 (aqueles) が54例 {単音節の語の複数形33, 複合語の複数形13, 二音節以上で後ろから2番目の音節にアクセントのある語の複数形7, カスティーリャニズム1} で10.46%,  $\phi$ is型 (aqueis) が462例 {このうち形容詞の語尾-bel < lat. -BILIEで終る語53例} で89.53%という結果になった。

この調査結果において、問題となるのは、共存している場合である。例えば、aqueles (áqueles) / aqueis, cales (quales) / cais (quais), difíciles / difíceis, difícis, fáciles / fáceis, fieles / fieis, fiabeles / fiábeis, fósiles / fóseis, inútiles / inúteis, niveles / niveis, peles / peis, tales / tais, automoviles / autmóveisのように、これらの共存する語形は、いづれも斜線の左側がRAG e ILGの現行の規則に従う形態である。二つ、もしくは三つの形態が現れる原因は、記事の書き手の出身地、教育レベルの差、またバイリンガリズムなどにより揺れが生じているのであろうか。それとも、イベロ・ロマン語内での相互影響によるものであろうか。ポルトガル語と同形のdifíceis, fáceisを受容したり、niveleのばあいアクセントの位置がカスティーリャ語ではnivélであるので(ガリシア語ではnível) niveisという形態をとっている。

## II. 複数形の形態の分類

多様な形態を示す複数形を分類すると、次のようなタイプが考えられる。

A型: カスティーリャ語形式の型, aquels < aquel (形・あの), mortales < mortal (形・死の)。この型は、カスティーリャ語において形成される複数形と同じ形式のものである。(カスティーリャニズム)

B型: 古ガリシア語形式の型, aqués < aquel, azúes < azul (形・青い) など、古ガリシア語に現れる形式で、複数形の接尾辞-esの前の-1-が省略される。この場合、aquel > aquees > aquésのように-ee-の収縮がおこる。

C型: カタロニア語形式の型, mortals < mortal, nabals < nabal (形・[植] 蕪の)。カスティーリャ語形式のidiolecto (個人特有語法) とも考えられるが、音韻的にみると、/e/ が弛緩した形式である。

D型: 東部ガリシア語形式の型, mortáis < mortal, persoais < persoal (形・人の)。この型は現代ポルトガル語と同じ形式で、二重母音化し、mortáes < mortáisのようにe > iと文字素が変化したものである。

E型: 西部ガリシア語形式の型, mortás < mortal. -1-の抹消で-sを付加する。この型は音韻的に同化作用をうけた形式で、古ガリシア語にも現れ、現代では方言にも出現する。

さて、これらのタイプから-1を保存する型と、-1が消える型に二分できる。

1		-1保存型	A animales C animais
2		-1消失型 (アルカイック型)	B animaes D animais E animás

### III. ロサリーアの語形調査

Rosalíaの作品から-1で終る語の複数形の形態を、先に述べた分類から表すと、次に示すとおりである。

型 \ 作品	Cantares (1863)	Follas (1880)
A(-les)	43 (89.58)	71 (73.95)
B(-φes)	5 (10.41)	7 (7.29)
C(-l s)	0	14 (14.58)
B(-φis)	0	3 (3.12)
B(-φs)	0	1 (1.04)

#### 1. *Cantares* (1863) における語い形態 (Catedra版1984を利用)

[省略記号・M:単数形が単音節の語,P:単数形が複音節の語;A;最後の音節にアクセントのある語,G;後ろから二番目の音節にアクセントのある語]

A型(43例):ánxeles(男名・天使)2PG,aqueles(形・あの)11PG[daqueles(前置詞de+aqueles),naqueles(前置詞en+aqueles),c'aqueles(前置詞con+aqueles)を含む],aqueles(代・あの)1PA,cáles(疑問形容詞・どの)1M,eles(代名詞・彼ら,それら)9M[deles(de+eles)を含む],españoles(形・スペインの)1PA,fráxiles(形・もろい)1PG,froles(女名・花)7M,herbales(男名・草地)1PA,iguales(形・同じな)1PA,males(形・悪い)1M,mandiles(男名・前かけ)1PA,rosales(男名・[植]バラの木)1PA,tales(形・そのような)4M,toxales(男名・[植]はりにしだ)1PA。

B型(5例):anxes<anxel(男名・天使)1PG,aqués<aquel(形・あの)1PA[1909年版のテキストではaquês],azúes<azul(形・青い)2PA,taes<tal(形・そのような)1M。

これらの語いにみるように、アクセントのある母音e,もしくはアクセントのない母音eの前にある-1は省略され、この母音eは接尾語-esのeと融合する。すなわち、anxes,aquésのようである。もし、子音-1より前の位置にある母音がeでなくaまたはuならば,a,uはtaes,azúesのようになる。

また、一つの語いに二つの形式の複数形が現れるばあいがある。つまり、ánxelesとanxes,aquelesとaqués,talesとtaesである。この二つの形式、カスティーリャ語形式のタイプと古ガリシア語形式のタイプの規則による複数形の形態は、恣意的に用いられているように考えられる。ロサリーアの作品において、古ガリシア語型の語形式は、その用法の頻度から意味するところは、明らかに追想のイメージをもたせるため古ガリシア語の形式を使用したと思われる。ただ、次にみるように韻律の調和のため古ガリシア語型の形式を用いたと考えるところもある。

1) si ti foche ánxel de amor/polos anxes escollida.(*Cantares*, p. 173) (もし、お前[サンタ・マルガリーダ]が天使たちから愛の天使に選ばれたら)

2) cal fan aqués que non saben/direitamente unha cousa.

(*Cantares*, p. 178) (あることを直接に彼らが知らない雰囲気をつくるように)

3) i aqueles tan azúes/que sangue azul manaban,(*Cantares*, p. 118)

(そして、青い血をふきだしていたあまりにも青い空)。この場合、一行7音節の詩でazulesと同律であるが、azúesを用いたところに余情がある。

## 2. Follas novas(1880)における語い形態 (Galaxia版1986年を利用)

A型 (71例) : algoasiles (男名・捕吏) 1PA, ánxeles 9PG, aqueles 9PG, cabezales (男名・小まくら) 1PA, cales (関代・その) 1M, cáles (疑形・どの) 1M, capiteles (男名・柱頭) 1PA, caraveles (男名・[植]カーネーション) 1PA, coles (男名・キャベツ) 1M, dixitales (形・指の) 1PA, eles (neles [en+eles], deles [de+eles]) 12M, feles (女名・辛酸) 1M, froles 1M, herbales 1PA, iguales 1PA, infantiles (形・幼児の) 1PA, inmortales (形・不死の) 1PA, males 3M, meles (女名・蜜) 3M, miles (形・千の) 1M, mortales 1PA, manantiales (形・泉の) 1PA, naturales (形・自然の) 1PA, personales (形・人の) 1PA, rosales 1PA, tales 1M, terrales (形・陸の) 1PA, vales 1M。

B型 (3例) : anxés 1PG, aqués (daqués[da+aqués]を含む) 6PA。

C型 (14例) : froles 2M, mals 5M, mortals 1M, nabals 2PA, stils (形・繊細な) 1PA, vals 3M。

D型 (3例) : matináis (型・朝の) 1PA, mortáis 2PA。

E型 (1例) : mortás 1PA。

3. Cantares, Follasからの調査結果を形態論から-1が残存するか、消失するかでみると、次のようになる。

型 作品	A+C(-1残存)	B+D+E(-1消失)
Cantares	43 (89.58)	5 (10.41)
Follas	85 (88.54)	11 (11.45)

おわりに

これまで見てきたように、ロサリーアの作品において-1で終る語の複数形の形式は、カスティージャ語形式のタイプが優勢であるが、ロサリーア自身後退する型と闘っている言語観がある。このことはガリシア語史のなかで、16世紀から18世紀までの沈黙の時代をへて、ガリシアのルネッサンスの始まる19世紀後半の言語事情を考慮に入れる必要があるだろう。Ánxeles / anxés, aqueles / aqués, froles / froles, males / mals, mortales / mortáis, tales / taes, vales / valsのように共存するばあいがあるのは、詩の韻律のため、また追想を起こすために、古ガリシア語の形態を用いたものと考えられる。Follas novas のなかでは、11.45%がアルカイック型の形式をもちいている。

このような様態は、ガリシア語の方言的現実を反映し、19世紀末のガリシアのルネッサンス(一つの文学語をつくる目的)期における、ガリシア語南西部(サール河地域)の言語事実を現している。

注)

1) 本稿は、日本ロマンス語学会第24回大会の統一テーマ「語いの問題」において口頭発表した草稿をもとにして加筆、補正したものである。発表の後、有益なコメントを頂いた先生方にたいして、ここに感謝の意を表したい。

2) RAG e ILG は、その記述がスペイン語主義的傾向がある。それに対してAGAL (ガリシア語協会) は復古主義の見解を示している。1986年6月4日、言語の正常化のための常任委員会が開かれている。

付記

「ガリシアの地名にみる形態」

ポンテベドラ・マリーン (ウシオ・ディス・ティルベス氏の協力による) : Cervás < cerval (形・鹿の), Currás < curral (男名・家畜の囲い場), Casás < casal (男名・村落), Cirdrás < cirdral (男名・さくらんぼ畑), Belosás < belo + sal (美しい・塩)。コルーニャ : Feás < feal (男名・乾し草倉), Mantés < mantel (男名・テーブル掛け), Cadrís < cadril (男名・腰骨)。オレンセ : Ramirás < ramiral (形・ラミノの)。

地名にみる -1 で終る語は単数形で用いる意識が多くのはあいなく、複数形で定着している。

## 参 考 文 献

- Associaçom Galega da Língua (AGAL), Comissom Lingüística: *Estudo Crítico das Normas Ortográficas e Morfolóxicas do Idioma Galego*. Ourense, 1983.
- Boyd-Bowman, Peter: *From Latin to Romance in Sound Charts*. Copyright 1954, 1980 by Georgetown University.
- Carballo Calero, Ricardo: *Problemas da Língua Galega*. Lisboa, Sá da Costa, 1981.
- : *Estudos Rosalianos. Aspectos da vida e da OBRA de Rosalía de Castro*. Editorial Galaxia, Vigo, 1979.
- García de Diego, V.: *Elementos de Gramática Histórica Galega*. 1909 Edición Facsimilar, Verba Anexo 23, Santiago de Compostela, 1984.
- Publicaciones do Parlamento de Galicia: *Lei de Normalización Lingüística*. Santiago de Compostela, 1983.
- Real Academia Galega e Instituto da Língua Galega: *Normas Ortográficas e Morfolóxicas do Idioma Galego*. Vigo, 1983<sup>3</sup>.
- Rosario Álvarez, X.L. Regueira, H. Monteagudo: *Gramática Galega*. (Da Sección de Gramática do Instituto da Língua Galega), Vigo, 1986.
- Sección Didáctica do Instituto da Língua Galega: *Galego Coloquial*. Voz de Galicia, La Coruña, 1986.
- TEXTO (Corpus)
- Rosalía de Castro:

*Cantares gallegos*. Madrid, Ediciones Cátedra, 1984.

*Cantares gallegos*. Obras Completas II, Madrid, Los Sucesores de Hernando, 1909.

*Follas Novas*. Vigo Galaxia, 1986.

*Poesía Completa en Galego*. Edicións Xerais, Vigo, 1985<sup>5</sup>.

A NOSA TERRA (Periódico Galego Semanal) N. 295-N.308 (18 de xuño do 1986 - 29 de xaneiro do 1987), Vigo.

〈補遺〉

García Gonzalez, Constantino: *Glosario de Voces gallegas hoxe*. Santiago de Compostela, 1986.

: *Temas Lingüística Galega*. La Coruña, 1986.

Moralejo Lasso, A.: *Toponimia Gallega y Leonesa*. Santiago de Compostela, 1977.